

【宇和島市教育委員会】

校務 DX 計画

宇和島市では業務負担軽減を目指し、校務支援システム、健康管理システム、グループウェアシステムを導入し、教員の働き方改革を推進してきました。

令和5年度には自宅から学校の職員室の校務用端末を安全に遠隔操作できるシステムを導入、令和6年度には校務用端末及び関係サーバを更新し、市内の小中学校の校務用端末であればどれを利用しても自分の環境で業務ができるようになり、人事異動時の負担を軽減。また、デジタルドリルについても更改を行い、児童生徒の学習進度による個別対応ができることで教員の負担を軽減しています。

このように教員が働きやすい環境を目指して ICT 環境の整備を実施しているところですが、依然として教員の長時間勤務は深刻な状況です。そのため、宇和島市では「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

1. 校内ネットワーク環境の改善

宇和島市では校内で利用するネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒の教育活動で利用する「学習系」に分離しており、現在、各教室では「学習系」しか利用できないため、校務処理の多くが職員室に限定されています。教室でも校務が行えるようネットワークの見直しを行います。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（市役所サーバ上）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。現状の運用では地震や津波などの大規模災害時に校務系データの喪失や学校再開に当たっての障害となる可能性があります。クラウド化することにより、データの喪失を回避し、ライフライン確保後はすぐに避難所や仮庁舎等からでもシステムが利用できるようになります。校務支援システムの次期更新時（令和10年5月末）のクラウド化を目指し、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

3. ペーパーレスの推進

（1）保護者連絡システムの見直し

保護者への連絡・情報交換について、保護者への連絡と保護者からの出欠席及び健康状態の報告は別のシステムを利用しており、学校からの配布文書の多くは紙での配布を行っています。保護者連絡アプリについて実証実験を行い、連絡・情報交換ツールの一本化、配

布文書のペーパーレス化、災害時の安否確認について実現できるものの導入を検討していきます。

（２）FAX 及び押印の見直し

学校間や市教育委員会と学校間の文書連絡・資料送付を可能な限り電子化します。緊急時やシステム不具合発生時等の FAX が最も効率的に連絡手段として働く場合を除き、基本的に FAX は使用しないよう、改めて周知・働きかけを行います。学校間や市教育委員会と学校間との連絡や通知についても、原則押印廃止に取り組みます。